

🍊メイトは出番をまっている🍊

～ わたしのまちでキャラバン・メイトが活躍する仕組み ～

発行：京都市保健福祉局長寿社会部長寿福祉課

電話：075(251)1106 平成28年7月

毎日猛暑が続き、高齢者の方々に脱水や、熱中症予防の呼びかけが必要な時期となりましたが、支援する側の皆様も、体調を崩さぬようご自愛頂ければと思います。

さて、今回は、認知症の人や家族が安心して住み続けられる地域づくりの大きな柱である、「認知症サポーター養成講座(認知症あんしんサポーター養成講座)」をテーマに取り上げ、市内での実施状況と併せて、地域のキャラバン・メイト(認知症サポートリーダー)が活躍できるよう独自の仕組みで活動している、南区と西京区の取組をご紹介します。

また、4面の“シリーズ「地域でつながって支える」”では、“京都府看護協会”への取材記事を掲載していますので、ご一読下さい。

※ 京都市では、認知症サポーターを“認知症あんしんサポーター”、キャラバン・メイトを“認知症あんしんサポートリーダー”と呼んでいます。以下、全国キャラバン・メイト連絡協議会が使用している名称で記載します。

認サポの始まり

2004年、「痴呆」から「認知症」へ呼称が変更され、これを契機に「認知症を知り地域をつくる10ヵ年」のキャンペーンが開始されました。その一環として、2005年から「認知症サポーター100万人キャラバン」がスタートし、5年間で100万人を目標としていたサポーター数は現在750万人を超えています。2015年1月に出された新オレンジプランでは、2017年までに800万人を目指すとしています。

京都市の状況

京都市の事務局である、京都市長寿すこやかセンター(以下、すこセン)の村島さんにお聞きしました。

◆認知症サポーター養成講座について◆

- ★地域で暮らす認知症の方やその家族を応援する「認知症サポーター」を養成する講座。
- ★市内に在住または通勤通学されている5人以上の市民の方が対象。
- ★認知症キャラバン・メイト養成研修を受講した人が講師となって実施する。
- ★講座時間は、基本的には中学生までの子どもが対象の場合は60分。それ以外の対象者は概ね90分。
- ★内容はテキストに沿ったものとし、対象に合わせて分かりやすく工夫するなどして実施する。

京都市内の実施状況(H27年度実績より)

参加人数：12,857人

参加者で最も多い属性は住民(民生委員や老人福祉員など地域の方)、次に多いのは学校です。

実施回数：419回

キャラバン・メイトの属性は、高齢サポート(地域包括支援センター)職員が最も多く、次いでグループホーム、市・区社協と続く)

◆キャラバン・メイト養成研修について◆

- ★認知症サポーター養成講座の講師役である、キャラバンメイトを養成する講座。
- ★認知症サポーター養成講座を、年間10回程度(最低3回)ボランティアの立場で行える人が対象。

アドバンスサポーターの活動は、京都市独自の取組みと名称です。

H27年度現在登録者数226名のうち66%にあたる112名が活動中。

今年度から、受講者名簿を区・支所と、高齢サポートに送付する予定です。

◆認知サポーターステップアップ講座(認知症あんしんサポーターアドバンス)講座について◆

- ★認知症サポーターが、自分達の地域で高齢者の見守りや居場所づくりに参加できるよう、認知症や介護の知識を更に高めるための講座。
- ★受講者は認知症アドバンスサポーターとして、任意で登録。市内では主に認知症カフェやサロンで活動中。(プログラム実施のサポートや見守り等)
- ★市内の関係者に、すこセン事業案内と一緒に講座開催の案内を送付して周知している。

アドバンスサポーターへの協力依頼の相談はすこセンまで。



市内の取組事例のご紹介



市内では様々な工夫をこらした認知症サポーター養成講座(以下、「認サポ講座」)が行われていますが、今回は多くの地域で課題になっている未活動キャラバン・メイトの支援に焦点をあて、地域でキャラバン・メイトが活動しやすい仕組みを構築している取組み例をご紹介します。

登録事業所みんなで頑張る“みなサポ”の認サポ講座！

【南区認知症サポートネットワーク(以下、“みなサポ”)】

認サポ講座の位置づけ

南区では、南区認知症サポートネットワークの事業の一つである、啓発活動として認サポ講座を実施しています。



“みなサポ”の認サポ講座の特徴

- 区民の方はもちろん、保育園・小・中・高校のそれぞれの時期に、毎回認サポ講座を受けてもらえることを目指して奮闘中。
- “みなサポ”や認知症あんしん相談窓口に依頼があった認サポ講座は、みなサポ会議で報告し、講師選定や実施の協力確認を行なう。
- H27年度は、京都地域包括ケア推進機構からの委託で、「高齢者にやさしいサポート企業の研修」としてMK株式会社で認サポ講座を実施。

オリジナルキャラクター“みなサポ”の缶バッジ(非売品)第2号デザイン。ただ今配布中！



京都、滋賀のMKグループの全タクシードライバー1730人を対象に、計28回の認サポ講座を行いました。

キャラバン・メイトへのアプローチや活動をしやすい工夫

事業所へのアンケートの実施でキャラバン・メイトの状況を把握

認サポ講座開催時にスタッフを募集

経験者と一緒に実施し経験を積む

フォローアップ研修の実施

包括はもちろん居宅・訪問介護・通所介護・福祉用具・施設職員等、様々なサービス種別の職員が参加。キャラバン・メイトでなくても一緒に参加・見学。みんなで講座を作っていきます。

“みなサポ”独自研修との合同開催です。認知症の医療的知識や相談技術等について、みんなで学びます。

みなサポ等身大着ぐるみ！認サポ講座の寸劇に登場したり、広報活動に参加したりと、活躍中です。手触り・抱き心地は抜群！！



【参考】活動の土台となっているネットワーク“みなサポ”について

“みなサポ”は南区の介護保険事業者等連絡会議の世話人会が中心となって立ち上げた、認知症の方や家族を支援するためのネットワークです。

啓発や研修、広報活動、認知症による行方不明者の捜索ネットを構築する他、独自活動として、『認知症あんしん相談窓口』の設置と、周知用ステッカーやマップの作成、認知症相談アドバイザーの養成等々を行っています。現在、92か所の事業所が登録しています。

すこセンから



- ★すこせんホームページの「講座・研修のご案内」では、誰でも参加できる認サポ講座《オープン講座》と、認サポ講座を実施するキャラバン・メイトを募る《メイト募集》を掲載していますのでご覧ください。
- ★1面でもお伝えしたように、今年度から認知症サポーターアドバンス講座を受講された方の名簿を、各区役所・支所、高齢サポートにお送りします。すこセンでは、地域の担い手の養成から活動までを支援することで地域づくりのお手伝いをしたいと考えています。つきましては、認サポに関してお困りのことや、その他の情報があればすこセンまでお知らせ下さい。
- ★地域の認知症カフェや、サロンの活動を拡げていくことも大事な支援の一つと考えておりますので、それらの情報もお待ちしています。

キャラバン・メイトが続々デビューする！西京・洛西の秘策とは

【西京区認知症徘徊ネットワーク】



認サポ講座の位置づけ

西京・洛西では、認知症徘徊ネットワークの啓発活動の一環として、小学生を対象とした認サポ講座を計画的に実施しています。

西京・洛西の認サポ講座の特徴

- 西京・洛西では、小学校での認サポ講座を積極的に開催。
- 独自の説明用チラシを作成して、福祉事務所、地域包括支援センター、区社協が小学校長会に出向き、プレゼンを実施。
- 経験のないキャラバン・メイトが活動できる仕組みを構築。
- ※キャラバン・メイトへのアプローチや活動をしやすい工夫参照
- その結果、活動経験のなかったキャラバン・メイトが活動を開始し、今後も活動予定。

20年後には、西京区民の多くが認知症サポーターになっていることを目標にしています。

今年度、全校での実施を目指しています。

問い合わせがあった学校には、高齢サポート等が出向いて打合せを行います。それぞれの小学校で大切にしていることを確認したり、グループワークの詳細な進め方等を担任の先生と一緒に考えたりしています。

キャラバン・メイトが始動しやすくなる工夫

認サポ講座に必要なものを作成してパッケージ化

パッケージ化した教材等を西京・洛西内で共有

未経験キャラバン・メイトへの説明会を開催

説明会に参加した後、経験者との協働で認サポ講座デビュー

標準的なタイムスケジュール

講座用の原稿

パワポ資料

これらを使うかどうかは自由です

第1回目(昨年度)の説明会は、居宅介護支援事業所等のケアマネジャーに呼びかけて開催しました。参加したキャラバン・メイトは17名。そのうち、12名が説明会の翌月、翌々月にキャラバン・メイトとしてデビューしています。

今年度は、大人向け講座開催の説明会も実施しました。

【参考】活動の基盤となっているネットワーク“西京区認知症徘徊ネットワーク”について

西京・洛西地域では、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指して、認知症に対する正しい理解と支援の輪を広げるために、福祉事務所や地域包括支援センター等関係機関が定期的に検討会を開いています。



シリーズ「地域でつながって支える」～⑤公益社団法人 京都府看護協会～

このコーナーでは、認知症の方とその家族の支援について連携し、協力し合える関係団体や組織等をご紹介します。今回は、「公益社団法人 京都府看護協会」の活動について、常任理事の長谷川さんと、教育担当の杉岡さんにお話を伺いました。



公益社団法人 京都府看護協会とは？



京都府内に居住或いは就業(過去も含む)している保健師・助産師・看護師・准看護師が自主的に運営する職能団体です。

主な活動は？

- ◆働きやすい職場環境の整備
- ◆教育研修活動
- ◆広報活動
- ◆(看護職の)再就業のための支援

受講者が、勤務している病院内でカフェ(サロン型)を開いた実践例もあります。

どちらの研修も、
毎回定員を大きく上
回る申込があります。
その背景には…



教育研修活動として、下の研修も行われています。

【認知症サポートナース養成研修】

- ・入院医療の場で、認知症の人に適切な看護を提供できる看護職を育成するための研修で、急性期病院等で働く看護師を対象としています。
- ・終了後は…
アクションプランの立案 → 組織を動かし → 実践報告
まで行います。

【認知症看護総合研修】

- ・認知症の人の暮らしを支えるための看護の方法や、社会資源、家族支援について学ぶための研修です。
- ・病院、介護福祉施設、訪問看護ステーション等で働く看護師を対象としています。

看護職も何とかしなければと思っていた！

急性期病院や、その他様々な看護の現場で、認知症の人のケアを模索している看護職がたくさんいるという現状があります。



地域における認知症の方と家族の支援に関する活動や、多職種連携について

くらしあんしん療養相談室をご存知ですか？

訪問看護師が、健康、療養、介護等について府民の方や専門職の方の相談に応じています。
京都市内では、北区の訪問看護ステーション 春うらら(tel075-406-0182)と、
右京区の訪問看護ステーション にしお(tel075-881-3866)の2カ所があります。

高齢サポートや民生委員の方からも相談が入ります。

多職種連携について

必要性を感じていても、どのように連携をとればよいのかわからないと感じている看護師も多いと思います。
お互いにどのような情報が欲しいかを伝え合える関係づくりが大事ですね。
カンファレンスの際に、連携先を確認しあってはどうでしょうか。

例えば、
入院時には、本人のこれまでの暮らしに関する情報が、また、退院時には 看護のアドバイスが伝えればいいですね、

地域看護を担っている看護職からのメッセージ



認知症の方に、もっと早く関わりたい！

早めに訪問看護を利用すれば、例えば、服薬支援で症状が上手にコントロールできるようになったり、介護職がどのタイミングで訪問すれば効果的なのか提案できたり、訪問看護師が少し様子を見に行くことで、身体管理ができたりすることもあります。

また、退院直後に訪問看護を利用することで、自宅での療養生活をスムーズに始めることもできます。
訪問介護で“生活”を整えるように、訪問看護で“心や身体”を整えるという考え方を
持って頂き、それをケアプランに組み込んでもらえればと思います。



告知 いつも認知症地域支援推進員(以下、推進員)の活動ニュースをお読み下さり有難うございます。今回は、“編集後記”を“告知”に変えて、推進員からのご案内をさせていただきます。8月25日(木)に、市内の認知症支援のためのネットワーク情報交換会を開催することとなりました。会の前半では、市連携要領についての説明と報告も致します。推進員の独自活動としては初めての取り組みですので至らない点も多く、皆様のご協力をお願いすることもあるかと思いますが、その分、自由度の高い活発な会にしたいと考えておりますので、どうぞお力添え下さいますようお願い申し上げます。 認知症地域支援推進員 清水